

### 第三章 3) レスチンガ耕地 (グアタバラ耕地数キロ地点)

#### 【戦前にレスチンガ耕地で就労した人々】

\*三浦一雄、1931年5月、ブエノス・アイレス丸、宮城県栗原郡有賀村出身、パウリスタ本線グアラニー駅レスチンガ耕地で2ヶ年就労後、借地農に転じて2ヶ年綿作に従事、さらにマクコ駅(バリーニャ駅の次)で4ヶ月在住する。後年パラナ州トレスバラス移住地に永住を求めて入植する。  
(「トレスバラス移住地開拓20周年史」238ページ)

\*新吾新松、1932年、アフリカ丸、北海道空知郡歌志内村、レスチンガ耕地に就労すること2ヶ年後、パウリスタ本線グアラニー駅ボア・ビスタ耕地に1ヶ年働く。アララクワラ線を転々とし綿花栽培を遂行、さらにドラデンセ線に於いても綿作。後年パラナ州トレスバラス移住地ジャクチンガ区に入植。  
(「トレスバラス移住地開拓20周年史」710ページ)

\*狩行政春、1933年、アフリカ丸、鹿児島県伊佐郡出身、同県人の北鶴親志氏の家族構成員、サン・マルチーニョ耕地の分耕地レスチンガ耕地に就労すること20日目で移転、幾度と移転を繰り返し、リンコン駅サン・セバスチャン耕地で5ヶ年就労。後年パラナ州トレスバラス移住地コッケイロ区に入植。  
(「トレスバラス移住地開拓20周年史」716ページ)

\*鈴木利平、1933年10月、マニラ丸、宮城県栗原郡志波姫村出身、レスチンガ耕地で義務農年就労、グアタバラ駅の1つ先の駅グアラニー駅付近で1農年綿作り、転じながら後年パラナ州トレスバラス移住地に入植。  
(「トレスバラス移住地開拓20周年史」705ページ)

\*石毛徳家、妻とみ、1935年3月、茨城県鹿島郡波崎町出身、パウリスタ本線グアラニー駅サルモン耕地に配耕された。後年オズワルド・クルース市に在住する。(つくばね第13号)

\*竹田金次郎、1932年7月、ラプラタ丸、北海道静内町出身、ドミンゴ・ビレーラス駅(グアタバラ耕地から2番目の駅)フィゲラ耕地で義務農年就労後、リベイロン・プレート市郊外で綿作に従事、この頃は綿花熱に押され、古いコーヒーを伐採して綿作地になっていく耕主が多かった。モジアナ線に在住すること13年、その間に母ソマさんは1942年リベイロン・プレート市墓地に永眠した。終戦を機会にパラナ州トレスバラス移住地セードロ区に入植する。(「トレスバラス移住地開拓20周年史」393ページ)